

下水道事業の決算状況

1. 年間業務量

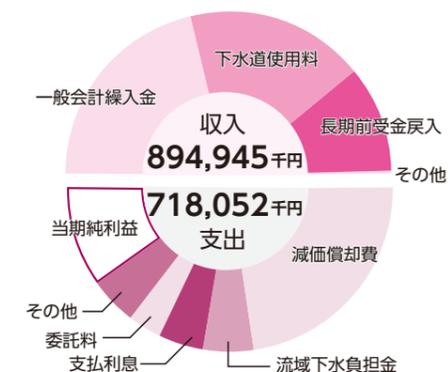
区分	令和4年度	令和3年度	比較
①行政区人口	15,129人	15,268人	△139
②水洗化人口	13,361人	13,420人	△59
③汚水処理戸数	5,399戸	5,288戸	+111
④普及率(②/①)	88.3%	87.9%	+0.4
⑤年間総処理量	1,384,696㎡	1,378,363㎡	+6,333
⑥処理有収水量	1,239,414㎡	1,259,904㎡	△20,490
⑦有収率(⑥/⑤)	89.5%	91.4%	△1.9



令和4年度は、令和3年度と比べ、処理戸数は増加となったものの、水洗化人口、処理有収水量は減少しています。

2. 経営状況

①収益的収支(税抜き) …汚水を処理するための経費とその財源

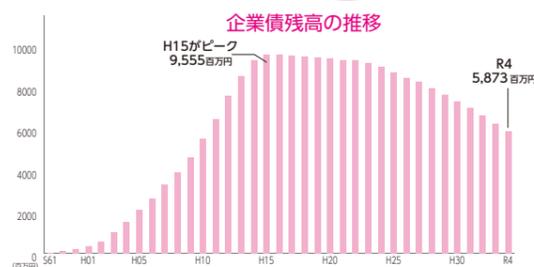


収入では、有収水量の増加により、使用料収入は前年度と比較して1.4%減の3億2,007万円となりました。収入全体では8億9,495万円となり前年度と比較して2.1%の減となりました。支出では、経費の節減を図っていますが、支出全体で7億1,805万円となり前年度と比較して0.4%増となりました。これにより収支は1億7,690万円の純利益(黒字)となりましたが、収入には長期前受金戻入という非現金収入が含まれています。この非現金収入を除くと令和4年度は実質1,135万円の損失(赤字)となっており、厳しい経営状況となっています。

②資本的収支(税込み) …下水道施設を整備するための経費とその財源

資本的収支では、収入額3億5,729万円に対して支出額は7億5,859万円となり、4億130万円の不足となりました。その不足に対しては、水道事業と同じく減価償却費等(非現金支出)や積立金を取り崩して補てんしましたが、それでもなお不足するため当期純利益を取り崩して補てんしています。建設改良工事は、公共下水道事業では達小路マンホールポンプ場設備等の更新、農業集落排水事業では三ヶ尻地区処理施設の機能強化工事(繰越事業)を実施。浄化槽事業では災害復旧工事1基および新規設置工事5基を行いました。

下水道事業会計の中で1番費用が大きい企業債償還金は6億3,686万円であり、その返済にかかる利息は7,910万円となっています。返済する財源が不足しているため、新たに約2億1,080万円の借入を行いました。それにより令和4年度末での企業債(借金)残高は、前年度より3億6,786万円減少し、58億7,290万円となりました。



下水道事業の経営課題

下水道事業会計は厳しい経営状態が続いていますが、経費の削減や業務の効率化等に努めた結果、下水道事業中期経営計画で見込んでいた純利益を上回る額を確保しました。その結果、計画に対して直ちに資金不足にはならない見込みのため、令和6年度の使用料改定は実施しない方向で検討しています。一方で、一般会計からの多額の繰り入れや企業債に大きく依存しており、資本的収支の不足額に内部留保資金(減価償却費や利益等)をほぼ使い切っているため、今後見込まれる老朽化への対応や災害等へ蓄える資金の確保が課題です。

水道事業の決算状況

1. 年間業務量

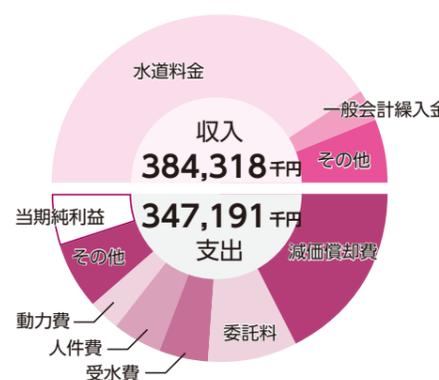
区分	令和4年度	令和3年度	比較
①行政区人口	15,129人	15,268人	△139
②給水人口	14,805人	14,933人	△128
③給水戸数	5,948戸	5,848戸	+100
④普及率(②/①)	97.9%	97.8%	+0.1
⑤年間配水量	2,837,516㎡	2,847,993㎡	△10,477
⑥給水量(年間有収水量)	2,374,556㎡	2,381,863㎡	△7,307
⑦有収率(⑥/⑤)	83.7%	83.6%	+0.1



令和4年度は、令和3年度と比べ給水戸数は増加しましたが、給水人口と給水量は減少となりました。

2. 経営状況

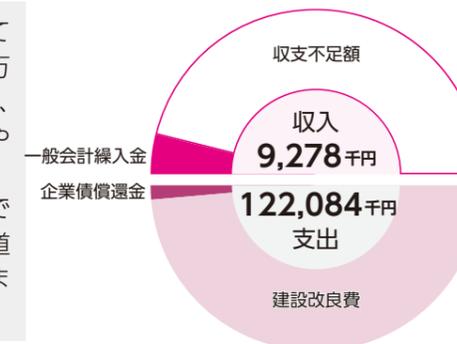
①収益的収支(税抜き) …給水するための経費とその財源



収入では、料金収入は前年度と比較して0.1%増の3億1,560万円となりましたが、収入全体では3億8,432万円となり、前年度と比較して0.6%の減となりました。支出では、修繕費や資産減耗費などの減少により、支出全体で3億4,719万円となり前年度と比較して1.0%減となりました。これにより、収支では3,713万円の純利益(黒字)となりました。

②資本的収支(税込み) …水道施設を整備するための経費とその財源

資本的収支では、収入額928万円に対して支出額は1億2,208万円となり、11,280万円の不足となりました。その不足に対しては、内部留保資金の減価償却費等(非現金支出)や積立金を取り崩して補てんしました。建設改良工事は、西根駒丘地区他3地区で老朽化した水道管の更新、西根前野地区で町道道路改良等に伴う配水管の移設工事を実施しました。



水道事業の経営課題

水道事業会計は、長年にわたり安定経営を維持していますが、今後も人口減少等により給水量は減少していき、水道料金収入の減少が見込まれます。また、老朽化が進んでいる浄水施設や配水管などの維持管理費や更新事業費、さらには国道4号拡幅にかかる配水管の移設、広域水道用水供給事業からの受水に向けた施設整備などにより、今後も費用が増加していくことから、これらの財源確保が今後の課題です。

※官庁会計では、収入を歳入、支出を歳出とし、それぞれの合算を差引した上で剰余金を計算しますが、水道事業会計と下水道事業会計は民間企業と同様の「公営企業会計」を適用しており、収益的収支と資本的収支に区分して経理しています。収益的収支が黒字の場合、民間企業であれば株主への配当などに使われますが、公営企業会計の場合は、施設の改良などに必要な経費(資本的収支)の不足額を補てんする財源として、建設改良費や過去に借入した企業債の返済に使われます。

水道事業決算状況

令和4年度

広報かねがさき9月号で水道事業会計と下水道事業会計の令和4年度決算額をお知らせしましたが、10月号ではより具体的な内容についてお知らせします。

